SID OUT

2M

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ＳＩＤ　ＯＵＴ

【Ｎコード】
Ｎ４００９Ｍ

【作者名】
２Ｍ

【あらすじ】
彼女が少女に語る話　場所を移してここに有り　これは意味の無い物語　一人の青年の無駄な足掻き

１：かｒは人か：前

とある街に中学校あり　別に不思議なことは無し
廃校でもない限りそこにいるのは生徒と教師　別に可笑しなことは無し
そこにいる人々は　学び　遊び　最近では人の道を外れることも
別に珍しいことは無し

さてここに生徒一人　階段の踊り場に倒れる男子あり
べつに『男子』のままでも良いのだが　語るためには『木月（きづき）　斗守（ともる）』と呼ぶべきか

その状況は異質である種の凄惨だった
彼の上には机の山　その数ぱっと見１００ちょっと　一クラス３２～３５人が３クラス　一学年分の机の下敷きとは痛々しい　赤いの流れてるし
階段の上には同学年の生徒か　男女入り混じり見物といったところ
椅子を投げ捨てるものがいるのは　つまりそういうこと　なんともまぁ
最後は皆笑顔で去っていった　いやいやいや

斗守の意識は消えかけていた
もはや　悲しみ無く　憎しみ無く
最初から　悲しみ無く（そんなものは）　憎しみ無く（そんざいせず）
死の淵にあって穏やかな彼の目には
「――――」

なんにんかの　ひとのあしが　みえた

二月後の大通り　学生賑う時間帯
道に面した商店街に　２ｔトラックが投げ込まれた

投げ込んだのは異形の姿
されどその者は人間だった

1：かｒは人か：前（後書き）

先日投稿したものの本編です
苦情の一つでも言っていただけたら幸いです

１：ｒは人か：後（前書き）

屋根の下にはツバメの巣
昔は居内に作ったそうな
糞が汚い・五月蝿い・と
人々はその巣を破壊する
ツバメは幸せ運ぶと言うが
人はその手で幸せ壊す

1：かｒは人か：後

特殊能力というものがある
ゲームのキャラクターを出せば早いだろうか

ソレは何時から現れたのか
人々に備わるはずの無い能力が宿り始めた
その能力（ちから）を持った者を排除しようとする者もいたが
次々と確認されていく数の多さ　宿ったからと言って誰でも使える
わけではない・という現実
に断念された

能力（ソレ）を　神の怒りと恐れるものもいた
能力（ソレ）を　大いなる進化と喜ぶものもいた

現在　人類の９割以上が能力を持つとされ
中には宿るだけでなく　その身を異形とする者まで　現れた

大通りは地獄と化した
トラックを投げ飛ばしたその者は、次々と物を飛ばし続ける
乗用車　電信柱　公衆電話　遂には壊した建物（オフィス）の一部まで
彼の名は小野寺
異形の体に異常の心を持った愉快犯である
ただ、楽しいから殺すのであり、気持ち良いから壊すのである
「アハハハッハハハハハハハーー」
・・・笑い方も逝っちゃってるし

襲う者がいれば襲われる者もいる
彼らがとる道は基本的に［逃げ］である
斗守もまた、逃げる人々の中にいた
「あーけっこう酷いわ。っとあぶねぇ」
その最中、倒れた女性を助けに近づく
しかし、支えられて立ち上がった女性は、彼を敵に向けて突き飛ばし、自分はさっさと走ってしまった
突き飛ばされて倒れるも
「いやまあ、いつものことだし」
斗守はたちあがり
「いやだから、怒る理由が無いんだって。…えっ？」
独り言の会話をしながら
「…もうちょっと早く言ってよ」
敵に向かって走り出した

崩れた瓦礫の隙間に一人の少女
彼女の元についた斗守は
「何でいつも逃げ遅れるのよ」
「あぁっオッチャン」
「いや答えてよ」
彼女を抱えて走り出す
ちなみに斗守は１４歳
そして彼女ー西ノ宮　薊ーは９歳
斗守に言わせれば『五つも離れりゃ十分オッサン』とのこと

獲物を見つけた小野寺は、嬉しそうに攻撃を始めた
しかし斗守はただの一度も振り返らずに、飛んでくるものを回避し続けた
「オッチャン。よく私がわかったね」

「紫炎(シエン)が教えてくれてね」
「それよりも、いつもよく回避(よけられる)できるねぇ」
「このくらいなら経験済みですから」
しゃべる余裕があるほどに
　一方の小野寺は顔を歪めだした
当たらない苛立ちに加え、警察と機動隊が攻撃の布陣を整えたから
からである
その程度はどうでもいいが、あの中に能力を使えるヤツがいると面
倒である

　斗守を挟んで対極地
要救助者救援のため、二人の警察官が二人に向かう
しかし薊を受け取った警察官は、あろうことか斗守を突き飛ばした
　しかももう一人が彼に向かって発砲したのである
　　最も、彼はそれすら簡単に回避したのだが
二人の警察官の到着と同時に、斗守ごと攻撃開始の武装集団(せいぎのみかた)
標的が残った事を理解できないまま、嬉しそうに攻撃開始の小野寺(はかいしゃ)
かくして斗守は、瓦礫と煙の中に消えた

　しかしその最中
　すべての攻撃を避けながら
　「詠無(エイン)、いこうか」
　小さく呟く斗守　すると目の前に
“おおせのままに　ご主人様”
　汚れた布をまとった女性の影が現れ
　斗守の中に吸い込まれ　斗守は小さく分解された

突如、後ろに気配を感じた小野寺が振り向くと
「あ　れ　？」
自分の体が切り刻まれていくことを感じ取った

意識の消える前、ソイツはみた
巨大な鎌を振り回し
自分の体を切り刻む
白き死神のすがたを

状況終了の後、歓声を上げる人々の前で分解(きえた)した死神は
誰もいない路地裏で斗守の姿に集合(もどった)した
「あいかわらずすごいねえオッチャン」
駆けつけてきた薊がただ一人賞賛する
「だけどもうちょっと勝負になっても良かったんじゃないの。あの力自慢」
「？　いや、あいつはただ押してただけだよ」

これが
この街で一番の英雄に変身する
この街で一番の迫害の被害者の
昔話のはじまり

１：かｒは人か：後（後書き）

小野寺怪人体
能力
：浮遊
効果
：手に触れた無機物を一定時間僅かに浮かせる。小野寺はこの能力で浮かせた物を押して飛ばしていただけである

2：夢のk別：前（前書き）

前の2・3日後に後　という流れを1・2週間ペースの予定です

２：夢のｋ別：前

木月　斗守
まずは彼の説明から始めることにしよう

６月１７日生まれの１４歳　いちおう中学生
身長１５９ｃｍで体重４７ｋｇ　平均と比べてどうなのかは知らない
特にカッコいいワケではないがとにかく優しい印象
動物好きで子供好きという性格も優しい人物だった

彼が迫害を受ける理由を語るためには　彼が迫害された理由を語るべきだろう
彼の両親は街の実力者であり　街一番の美男美女夫婦でもあった
そのためか彼らの子供も容姿端麗頭脳明晰の才子になると彼らは信じていた
そして生まれた第一子は文字通り玉のように可愛い赤子だった

しかしその赤子を見た両親の反応は違った
生まれたての赤ん坊特有の『赤くなった肌』『散らかった産毛や余分な皮による皺』『雷のような産声』
彼の両親はそれらを［醜い］と判断した
母親は初乳を与えることを拒み、父親は生まれたばかりの子供を床に叩きつけようとした

通常ならば当然、これらの行為は通報され然るべき措置をとるはずである
だが両親達は権力と財力を武器にこれらをもみ消した
外で待っていた伯母の意見により殺されることは無かったが、彼は両親から嫌われ、物以下として扱われた

不運なことに二年後に誕生した双子の姉弟は上記の三つが小さかったためか受け入れられ、対照的に兄(かれ)は益々凄惨な仕打ちを受けることになってしまった
さらには、彼の両親は公衆の面前でも彼を粗末に扱った
その結果、家族の仕打ちは伝染し、遂には街全体へと広がったのである
彼らを告発しようとした当時の産婦人科の医師は、失職させられた
挙句原因不明の事故死をとげた

言われ無き罪をうけ
覚え無き嘲りをうけ
誹謗中傷と暴力虐待が日常となった彼は

「あ〜　どうやって抜け出そうかねぇ。」
“やっぱり騒動の中にいましたとさ”
「さっきから誰に解説してるの」
“なにをやっているんですか”
“集中力が足らんな”
“いや、なんか言わなきゃならない・みたいな?”

特殊部隊に追い詰められ暴走した能力者兼犯罪者の大暴れによって
彼はピンチのど真ん中に　突っ立っていた

2：夢のk別：前（後書き）

追い詰められた犯罪者怪人体
能力
：超化
効果
：物質や身体を強化するが、強さは強化のさらに上
たとえばライターの炎を強化した場合はキャンプファイヤーくらい
の強さになるが
超化した場合は山火事クラスになる

木月　斗守（1）
主人公っぽい人物

2：夢のk別：後（前書き）

童話の親指姫を知っているなら
この質問に答えてごらん
親指姫の登場人物
一番哀れな人は誰？
姫は楽園たどり着けども
忘れ去られた母いずこ

2：夢のk別：後

その日は特に何かしたわけでは無かった
いつも通り寝床に戻ろうと下水管に戻る途中でオートバイ(にげるやつ)とパト(おうや)カーの迷惑なカーチェイスを目撃　元気だなぁと思ったらそのままこっちに向かって方向転換そのまま追突　今に至る

“それなのにダメージ無し(ゼロ)とは恐ろしい”
「経験済みですからね。つーか、さっきから誰に説明してるんだ」
“クラの能天気はいつもの事ですよ”
「詠無さん　あまり酷い事言わんほうが　」

ちなみにこの会話の最中でも、犯人と察のバトルは継続中
自分達と犯罪者の間に斗守が居てもお構いなしの警察官軍団
「アイツに当たっても殺人には為らんぞ。」
と叫ぶ現場指揮官
…それ　誰のことですか

だが犯人はその上をいく
そもそも捕まったらアウトなのだから誰かに構う必要が無く
しかも彼の能力はその辺に有る物で十分な効果が出せる
『おりゃぁぁぁっ』
落ちてた小石を投げつける　ただの投擲も‘超化’してしまえば超音速でばく進する弾丸になり　小石を‘超化’すれば投げる際の勢いにも移動時の摩擦にも楽勝で耐えてしまう
…この世界に巨大ヒーローは要らんな

そして会話しながらすべてを楽に避けていた被害者、斗守は

「この状況で隠れるには……ふむ」
タイミングを計って隣の川にダイブ
「やった。オレが仕留めたぞ。」
「いや。今のはオレだ。」
などと職業を考えると絶対おかしい会話を上に
「詠無」
“お任せを”
女性の霞みと融合、分解され
『！』
犯罪者の後ろに　死神の姿が現れた

当然驚いた犯罪者は、振り向きざまに‘超化’された先制攻撃(ストレートパンチ)
しかし
「「おやおや」」
数歩後ろに押されたもののノーダメージ
『おぉぉぉ』
その事に気づかぬ犯罪者(バカ)は　攻撃力と攻撃速度を‘超化’した怒涛
のラッシュを叩き込む
それすらも
「「あまり意味ないですよ」」
効果は無いようだった
『なんとぃぅ防御力』
「「防いでません。耐えてるだけですよ」」
痛みを防ぐ防御力ではなく　痛みに耐える耐久力
「「どうせならダメージを強くするべきでしたね」」
既知の痛みを無効化する経験と記憶

ソレが彼の強さ

『？？』

いつの間にか敵の喉には大鎌が刺さっており

そのまま頭部を

真っ二つに割られた

“で、この次はどうするんです？”

「このまま泳げば近くまで行けますので」

元に戻った彼は

川の中を泳いでいた

３：戦士のことwり：前

夏は暑い
とにかく暑い
　日照時間が長いからか
　地球温暖化のためか
この国の夏は死ぬほど暑い
そんな中　街では冷ややかな連続殺人事件が勃発していた
死因は撲殺
状況と検証と鑑識から凶器は氷だと推測された　なんとも冷たい凶器である
現時点で証拠が少ないこと　目撃証言が無いこと　から
捜査本部は

「とりあえずアイツが犯人でよくね」

と　木月斗守を指名手配したのだった

“完”
「何が？」
“クラのいつものボケトークですよ”
「その言い方は酷くないですか？」

などと語る無実の容疑者は、裏路地に潜みながらとある場所にむかっていた
というのも

犯人の通報があった
という警察の情報を盗聴した寄生者(とうちょうしゃ)が伝えてくれたからだった。
“酷い書き方”
ソコはスルーで

街の死角に隠れて犯人一（暫定）の自宅を覗いてみると
「もめてるねぇ」
見ると数人の警官と一人の青年が言い争っている
その（パッと見大学生）青年（表札に佐藤と書かれてました）は声を荒げて
「オレは違う」
だの
「オレは無実だ」
だの
「オレははめられた」
だの叫んでいた

「あの人が犯人なの？」
「まだ分かんないですね。オレは被害者じゃないし」
と質問するなぜか付いて来た薊とともに成り行きを見ていると

「イイカゲンニシロ」

とキレた佐藤（暫定）さんは　お決まりのように怪人化
「うわぁ」
「すごっ」
たちまち凍りつく警察官

さらには周囲も凍っていく

そんな真夏の即席氷土を見ながら

「詠無、準備して」

“おい　ウチじゃねぇのかい”

「紫炎は後で。あの人犯人じゃないし、キレてるだけだから誰も傷つけてないよ。」

“わかりました”

“あいよ”

「それと薊さん。頼みごと」

「???」

伝え終わると融合・分解

「グフ」

登場と同時に死神(そいつ)は

出会い頭に大鎌で一撃(みねうち)を喰らわせたのだった

「「そこのアナタ」」

終了と同時に　惨劇をまぬがれ腰を抜かしていた警官に

「「皆まだ死んでないから慌てないこと。この人の逮捕は公務執行妨害にしとくこと。犯人はあとで引きずり出してぶっ潰すから」」

と　伝言を残したのだった

３：戦士のことｗり：前（後書き）

詠無（１）
諸事情から木月　斗守に憑いている存在
死神であり、元は形も性別もない意識体だったが、薊のお節介で今のカタチに落ち着いた
世話好きで従順な性格

佐藤さん（暫定）の怪人体
能力
：凍結
効果
：対象を凍らせる能力　彼が犯人でない理由とは…

3：戦士のことwり：後（前書き）

あなたが私の腕を折っても
私はあなたの夢を護ろう
あなたが私の目を潰しても
私はあなたの時を護ろう
あなたが私の命を奪っても
私はあなたの鎧となろう

3：戦士のことwり：後

とりあえずの暴走を防いだ後、（回復した警官の一人が逆襲しようとしていたので少々トラウマを与え）
斗守は普段生活している排水路内のデッドスペースで待ち続けていた。
待っているのは薊からの連絡　頼みごとの結果だった。
“連絡がきたようですよ”
彼らの間の通信手段、寄生している『意識』の一部を繋いだ旧いプリペイドケータイの拾い物を通しての通話で、薊からの結果報告を聞くと
「それでは向かうと致しますか。」
“物証ないのにですか？”
「候補を絞ってもらいましたので、あとは直接確認ですよ。」

夜9時　ちょっとすぎ
とある部屋の住人が何かのレポートを書いていた
「「―一つ聴きたいのですが―」」
・・・え
「「この場合、どうします？」」
突如　真上から，何か，の襲撃　に対して
その住人が取った迎撃（こうどう）　を確認すると

「「つまり、真犯人はあなたですね」」
空を切った氷の拳　それを前にして　幻をけしかけた張本人は指摘した
“手にしたマイクを通して会話は外に筒抜けデス”
「「私は聖者ではないので理由は聞きません」」
逆上して攻撃してきた相手の前で霧散し
「紫炎。」
“まかせときなよ、大将”
ふたたび集結したとき　そこには　紅蓮の魔人がいた
にやける犯人　当然である
いかに熱が上限無しだとしても　氷を溶かすにはすさまじいエネルギーが必要
しかも相手は際限なしに氷を生み出せる　そうそう負ける要素はないのだが
「〔アナタは無実の笑顔を奪った〕」
その一瞬で必要以上の炎が包み込み
「〔ワタクシは聖者ではない。だからユルサナイ〕」

その男だけが　一瞬で　燃え尽きた

それは魔人イフリートか

それは精霊サラマンダーか

炎を操る炎の王が　そこにいた

“しかし大将。やっぱり意味無いんじゃネーの”

現場からはなれた場所に分解(きかん)復元した斗守は

「べつに感謝は要りませんから。」

“・・・いつもどおりでした。とさ”

3：戦士のことwり：後（後書き）

今回の真犯人
名前：坂本　佳祐
能力：凍結
考察：些細な理由から交際相手の花谷　頼子を殺害してしまった彼は所属するサークル内で自分と同じ能力を持つ同級生に罪を擦り付けることを計画した
これに対して斗守は薊に、無実の被害者と同年代の能力不明もしくは能力不確定の人物の割り出しを依頼　彼女経由で依頼を受けたもう一人の協力者によって上げられた候補を襲撃したのである。
（ちなみに3件ほど無関係だったが、その人物には事情を説明したうえで謝罪している）
凍死ではなく撲殺だったために暴かれたということ

詠無（2）
性格に関しての補足
もともと意識のみで性格などなかったが、薊のおせっかいによって今の性格に、造られた、のである

４：影Ｎ沈みて：前（前書き）

今回の前後はかなり短いです
ちなみに物語自体は前２４回（１２話）で、すでに全部書き終えています
が、その原稿を元に読みやすく書き直すのに時間がかかっています
オブラートというのはムズカシイ

４：影N沈みて：前

さて今回は　斗守のことをもう少し語ろうか
彼の有り方を表すならば
そう
　壊人
という言葉が望ましい

これまでの語りからも解ると思うが（解らなかったらゴメンね）彼は傷だらけである
　　では何が壊れたのか

　強い心を持たぬが故に
逆襲や復讐を行わなかったからか

　弱い心を持たぬが故に
逃亡や自殺を行わなかったからか

それらは理由の一因ではあるが　原因の根底を成してはいない

彼が壊れた最大の理由　それは　当たり前の善意から

彼にだって味方はいる
街には今は薊だけだが、街の外に出れば
　彼を助けようとしたため左遷された実習生（現小学校教師
　自分の音楽を彼が最初に理解したストリートミュージシャン（現トップミュージシャン

彼が現在生活している空間の管理責任者

そして

今は亡くなった最初の理解者
彼の伯母　木月　望

彼女こそが彼に優しさと思いやりを教えた恩師であり
彼の命を庇い、救った恩人であり
そして、彼の心を壊した張本人である

・・・あ、いえ
別に悪いことはしてませんよ。怨まれてないし

４：影Ｎ沈みて：後（前書き）

見極めよ
異常を常とする者にとって
常識こそが異質に感じる事がある
だからこそ見極めよ
掛けるべきは愛情か非情か
護るべきは正義か信念か　あるいは

4：影N沈みて：後

これまで話したとおり　彼の人生は陰惨なものだった
私は他人ではないので判らないが　普通こうなったらグレるか悲観的になるか自殺するものではなかろうか？

だが斗守はそうならなかった

それこそが彼の伯母が原因である

彼女は斗守に対して教え続けた
傷付けられてもやり返さない事
　怒りに身を任せない事
　　他者を慈しむ事

しかし　彼の周囲の環境は日を追うごとに悪化していた

　このままでは取り返しのつかないことになる

そう考えた彼女は　自分の能力を使用した

その人物がある行動を起こした最に発動する激痛（ペナルティ）
“厳罰”の能力だった

ここで彼女はあるミスを冒した

彼女は能力の対象を斗守(かれ)の怒りそのものに設定したのだ

「怒り」による行動ではなく「怒りを抱く」という行為によって発動する痛み
当時幼かった彼にとって　それは　日常的な感情を封じられることに等しかった

痛みから逃れるために怒りを感じないようにしていた彼の心は徐々に変化していった
怒りを抱かぬようにしていた彼は遂に
　怒りを忘れ
そして連鎖的に
　悲しみを忘れ
巻き込まれるように
　笑顔を忘れ
遂には　感情の一切を　失った

現在の斗守も特に改善されてはいない
彼が戦う理由は
「目の前の笑顔を守る為」
しかしその目的は　伯母から言われた言葉を持っているだけである
彼には「行動意識」はあってもその元となる「信念」も「正義」もない
事実　彼の笑顔は『場の雰囲気になんとなく合わせて顔の筋肉を動かしているだけ』である

故に彼は
『怪異を振りかざして世の平和を破壊する「怪人」』
ではなく
『破壊された心を武器に破壊に立ち向かう「壊人」』
なのである

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4009m/

SID OUT

2011年10月7日13時52分発行